

ヒルデガルトの音楽と言葉～声を発し、記す身体～

柿沼敏江

●ビンゲンのヒルデガルト Hildegard von Bingen (1098～1179) =20世紀に発見された作曲家

1913 歌曲発見

1969 歌曲 Lieder 出版

1970 音楽劇『徳たちの劇 Ord Virtutum』出版

1978 幻視の書『スキヴィアス』出版

●ヒルデガルトのおいたち

1098年ラインヘッセン地域のアルツァイ近郊のベルマースハイム生。

ベルマースハイム領主のヒルデベルトと妻メヒティルデの10番目の子
虚弱で病気がち。病床で幻視を見る。

両親は貴族出の若い女性ユッタにヒルデガルトを委ね、教育させる。

ユッタ：クロイツナハ近郊のシュパンハイム領主シュテファン伯の娘

1106年ユッタとともにディジボーデンベルク修道院に入る

文字教育より先に音楽教育が行なわれた

「ダビデの歌において指導し、聖歌の歌い方を教えた」

ユッタがHに詩編とデカコルド（十絃琴）を教える。

1136年ユッタ没。ディジボーデンベルク修道院の修道女のリーダーとなる。

※ディジボーデンベルク修道院

640年頃 アイルランドの隠者修道僧ディジボドゥス、布教のためフランク王国訪問。

ナーエ川とグレン川の合流点に庵を建てる

8世紀 ディジボドゥスの墓所をつくる

彼にちなんで地名をディジボーデンベルクとする

マインツ大司教ヴィリギスが修道院を寄進

1095年 マインツ大司教ルータルト、あたりにベネディクト会修道院として再組織

クリュニュー修道会を代表する北シュヴァルツヴァルトの

ヒルザウ修道院の影響下にある

クルニュー改革運動の影響、さわやかな雰囲気

1170年頃 ヒルデガルト、創立者ディジボド(ディジボドゥス)(619-700)伝執筆

●幻視体験

5歳（3歳）の頃から幻視を体験

1141年（42歳）幻視を見、それを公表するように命じる声を聞く

『スキヴィアス』執筆開始

口述し、フォルマルに筆記させる（フォルマルは文法を修正）

1146年 クレルヴォーのベルナルドゥス（高位の聖職者）に書簡

ベルナルドゥス：「幻視を神の恩寵とみなし、謙遜と献身と愛をもって対処せよ」

1147-48年 トーリアで宗教会議

マインツ大司教ハインリヒが教皇エウゲニウスに裁定を請う

教皇による審議の過程で、『スキヴィアス』の手稿の一部が読み上げられる

『スキヴィアス』の内容をみなが絶賛、教皇：ヒルデガルトに執筆続行を許可

●ルーペルツベルク女子修道院

1147-51年 ルーペルツベルクに女子修道院を創設。

18人の修道女とともに移る。

ビンゲンのルーペルト（Rupert von Bingen 9世紀）の墓

1151年 『スキヴィアス』完成
1158-71年 4回の説教旅行
1165年 アイビンゲンに第2修道院を創設 (庶民階級の修道女のため)
1179年 没

●ヒルデガルトの著作

1. 幻視三部作

『スキヴィアス Liber Scivias』 (1141-51)
Sci 「知れ」 vias 「道」

『価値ある生の書 Liber Vitae Meritotium』 (1158-63)

『神の御業 Liber Divinorum Operum』 (1170-73)

2. 自然学

『自然学 Physica』

『病因と治療 Causae et Curae』

3. 歌集

『天の啓示の調和のシンフォニア
Symphonia Harmoniae Caelestium
Revelationum』

4. 道徳劇

『徳たちの劇 Ordo Virtutum』

5. 神学の書

『福音の言説 Expositio Evangelioeum』

6. 謎の作品

知られざる言葉

知られざる文字

7. その他

『聖ベネディクトゥスの裁定について』

『聖アタナシウスの象徴について』

『聖ルベルトゥス伝』

『聖ディジボドゥス伝』

『三八の質問への回答』

『書簡』

●ヒルデガルトの音楽

◎聖歌 Lieder 77曲

アンティフォナ (43曲)

レスポンソリウム (18曲)

セクエンツァ (7曲)

イムヌス (5曲)

シンフォニア (2曲)

キリエ (1曲)

アレルヤ (1曲)

《シンフォニア Symphonia》(1141-1158年の間)

・デンデルモンド写本

(ベルギーのヴィラルルのシトー派修道院)

・ヴィースバーデン写本 (リーゼン・コーデクス、大寫本)

『スキヴィアス』 14の歌を含む (言葉のみ、楽譜なし)

◎道徳劇 《徳たちの劇 Ordo Virtutum》 (1151年頃) ヨーロッパ最初の宗教劇

倫理劇、ラテン語の劇音楽

君主、予言者、6人の女性の徳 (謙遜、愛、従順、忠実、希望、無垢、慈悲)、幸福な魂、不幸な魂、悪魔

●セクエンツァ Sequentia (新しいタイプの聖歌)

スイスのザンクト・ガレン修道院 (ベネディクト会、聖ガルス、アイルランド系)

トゥオティーロ Tuotillo (ca. 850 - ca. 915)アイルランド出身? トロースを作曲

ノトケル Notker balbulus (ca. 840 – 6 April 912) セクエンツァを作曲
形式
(A)A BB CC DD N

例

《過越の犠牲 Victimae Pascali》(11世紀) Wipo: Victimae paschali laudes
《怒りの日 Dies Irae》(13世紀前期) Thomas de Celano: Dies Irae

ノトケルのセクエンツァ

《今日は厳かな日である Haec est sancta solempnitas》
形式：A BB CC DD EE F G

ヒルデガルトのセクエンツァ (全7曲)

《鳩は視た Columba aspexit 》
(聖マクシミンに捧げた セクエンツァ)
形式：AA' BB' CC' DD' E

特徴

広い音域 (G3-D5)
形式的逸脱。旋律の変形、装飾の挿入

●ヒルデガルトの記譜法 (ノーテーション)

初期ドイツの記譜法 (ザンクトガレンのネウマとゴシックネウマ[4線鉤形ネウマ]の中間形態)
アンティフォナ：聖務日課において、詩編の前後に歌われる歌。
詩編なしに、単独で歌われる場合は、長い。

《ああ、いとも輝かしき宝石 O Splendidissima gemma》(マリアのアンティフォナ)
ひじょうに装飾的、高音域

●知られざる言葉、知られざる文字 lingua ignota, litterae ignotae

教皇アナスタシウス4世(在位1153-54)宛ての書簡

「神は、... この者[ヒルデガルト]が奇蹟を幻視し、知られざる文字を組み立て、知られざる言葉を生み出し、さまざまの、しなしながらそれ自体において調和している旋律(メロディ)を響かせるようにとおぼしめされたのである」。

異言(宗教的恍惚状態で発せられる理解不可能な言葉)

舌言葉(グロッソラリア、舌がかり)

Cf. ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』(1980)サルヴァトーレ修士

『完全言語の探究』(1993)ヒルデガルトの知られざる言葉に言及

・知られざる言葉 lingua ignota の例 (総数1006)

Musimia [nuzmuscata]: 肉荳蔻(にくずく) ナツメグ

Malskir [dens]: 歯

Aigonz/ Aieganz [angelus]: 天使

Korzinthio [propheta]: 預言者

「コリントの信徒への手紙」 14 異言と預言

パウロの言葉「異言を語る者は、人に向かってではなく、神に語っています。しかし、預言する者は、人に向かって語っているので、人をつくりあげ、励まし、慰めます」「異言を語るものが自分をつくりあげるのにたいして、預言する者は教会をつくりあげます」。

異言はバベルの言語状態をつくり、世界は無秩序に陥る

- ・「知られざる言葉」を織り込んだ歌
《おお、測り知れないほど大きな教会よ O Orzchis Ecclesia》（献堂式のためのアンティフォナ）

O **orzchis** Ecclesia,
armis divinis precincta
et iacincto ornata,
tu es **caldemia** stigmatum **loifolum**
et urbs scientiarum
O, o, tu es etiam **crizanta**
in alto sono
et es **chorzta** gemma.

おお、測り知れないほど大きな教会よ
聖なる武器を身につけ
ヒヤシンスに飾られて
そなたは人々の傷口から流れ出る芳香
そして知の都
おお、そなたは気高き響きの
聖油を塗られ
そなたは光り輝く宝石。

- ・知られざる文字 litterae ignotae
23文字
ゴシック＝ルーン文字に似ている
ギリシア語の影響
C：テーベの文字に似ている

●ヒルデガルトの幻視の言語は何だったのか

晩年の秘書ヴィベルト修道士の質問にたいして

「私の語ることばは、天上から受けた幻視からして私がそれを語るのです。
私が書いていることは幻視のなかで聴いたり見たりしたことで、自分で聴いて、
聴いた通りに粗雑なラテン語文字で告げることば以外には、どんなことばも書きません。
幻視のなかのことばは人間の口から出ることばとは似もつかぬ音を発して、さながら閃く炎のよう
でもあれば、純粋なエーテルのなかで動く雲のようでもあります」。

●幻視と病

「私は幻視のために——それを口に出さないでいたので——重病に罹って、二度と立ち上がれないほどベッドに打ちのめされました」。(クレルヴォー修道院のベルナル宛書簡)

「やがて神の鞭が私を病床につかせ給うた」。(『スキヴィアス』)

●語ること、記すこと

ヒルデガルトはヴィジョンを表現することによって「病から立ち直る」。

語ることによる表現（説教）

書き記すことによる表現

「幻視の後には自分が老女ではなくて、単純な幼い女の子のように感じられた」

(ヴィベルト修道士宛書簡)

●覚醒のなかでの幻視

「幻視を受けたのは、夢のなかでも、眠りのうちでも、錯乱状態のなかでもなく、また身体の日や外的な耳によるのでもありません。隠れたところで受けたのではなく、目覚めていながら、純粋な心と内的な自己の目と耳で見たのです。神のおぼしめしのままに、露わな場所で幻視を受けたのです」。(『スキヴィアス』宣言より)

●「知られざる言葉」＝中世の百科事典

Sarah H. Higley (アメリカの中世言語学者)

「知られざる言葉」を翻訳 Hildegard of Bingen's Unknown Language (2007)

神から動物、鳥、草木、虫まで様々なものを網羅した一種の百科事典

身体各部の名称、男女の生殖器の名称を含む

典拠とした事典

Summarium Heinrici: 中世の百科事典

トリアー写本の校訂本

セビリャの聖イシドールス* (ca.560-636) : 『語源』 Etymologie (全20巻) にもとづく

*インターネット利用者およびプログラマーの守護聖人

Cf. Glossopoeia: インターネット上での新造語作成 (新造語のサイト CONLANG)

●ヒルデガルトの音楽観

失墜前のアダムの声：天使のような声

その後、アダムは悪魔にだまされ、無知で不安定になった。

アダムの声を取り戻すために、預言者たちは詩編や賛歌を書き、楽器をつくった。

この楽器を奏で、歌うことによって失墜前の声を取り戻すことができる。

(したがって歌と音楽は重要である)

歌唱と楽器演奏：失われたアダムの言語、失われたアダムの天上的な音声を発見、再獲得する
探究として日々営まれなくてはならない

●響きとしての「知られざる言葉」

・接尾辞の buz=樹木

Gruzimbuz: 桜の木

Zirunzibuz: 梨の木

Muzimbuz: クルミの木

・接尾辞の zia=身体の一部

Pusinzia: 鼻水

Gulzia: 口蓋

Kolezia: 喉

・擬音語的な言葉

Zinzrinz: 螺旋階段

●歌、音楽の重要性—晩年の聖務停止

1178年 教会破門者の埋葬により聖務禁止となる、「神を讃美する歌」を禁じられる

マインツの高位聖職者に抗議の手紙

「神を讃美する歌は軽卒に禁止されてはならない」

地上の教会に沈黙を押しつける者は「天上の天使たちの讃美をともにすることはできない」。

マインツまで6時間かけて歩いていき、直訴

最終的には聖務禁止が解かれる

●ヒルデガルトの身体

身体への強い意識

「知られざる言葉」—身体各部の名称

病気

身体—神の言葉、音を受けとめる容器

幻視の重みによってこの容器は衰弱する。

容器は、幻視を体外に排出すること（語り、歌い、記すこと）で蘇る。

ヒルデガルトにとっての身体：

神の声をうけとめ、美しい響きとして放出する「魂の容器」

◆文献

エーコ、ウンベルト 1995 『完全言語の探究』上村忠男、廣石正和訳、東京：平凡社。

兼本 浩祐、大島 智弘 2007 ヒルデガルト・フォン・ビンゲンと側頭葉てんかんにおける神秘体験 --異言は何故真理を語るのか,また,ヒステリーは異言を語りうるか (第54回 日本病跡学会) -- (シンポジウム 夢幻・変容の意識と創造性) 『日本病跡学雑誌』 74: 31-37.

ペルヌー, レジーヌ 2012 『ビンゲンのヒルデガルト』長崎：聖母の騎士社。

種村季弘 1994. 『ビンゲンのヒルデガルトの世界』東京：青土社。

富原真弓編訳 2002 『中世思想原典集成15』東京：平凡社。（『スキヴィアス』所収）

Crocker, Richard L. 1977. *The Early Medieval Sequence*. Berkeley: University of California Press.

Fox, Matthew. 1987. *Hildegard of Bingen's Book of Divine Works: With Letters and Songs*. Rochester, VT: Bear & Company.

Higley, Sarah L. 2007. *Hildegard of Bingen's Unknown Language: An Edition, Translation and Discussion*. New York: Palgrave Macmillan.

Hildegard von Bingen. 1978. *Scivias*. Ed. Adelgundis Führkötter O.S.B. Corpus Christianorum Continuation Mediaevalis XLIII. Turnhout, Belgium: Brepols.

_____. 1988. *Symphonia*. With introduction, translation, and commentary by Barbara Newman. Ithaca, New York: Cornell University Press.

_____. 1991. *Symphonia Harmoniae Celestium Revelationum*. dendermode St.-Pieters & Paulusabdij MS. COD. 9. With introduction by Peter van Pouncke. Peer, Belgium: Alamire.

_____. 1998. *Lieder*. Ed. Lorenz Welker. With commentary by von Michael Klaper. Wiesbaden: Dr. Ludwig Reichert Verlag.